

一番心に残った話はルマンドさんの津波体験談である。7時58分にスマトラ沖地震が起こったので、人々は起きていたと思う。黒かつ色の海水が町に流れ込む様子は映像で見た。インドネシアは地震や津波に対する知識を持つ人が少ない。このことも、その映像で色々な方向に人が迷いながら逃げている様子を見て分かった。ルマンドさんは遠いアンダラスセメント工場に流されたが、バスケットボールを使って助かった。そのときは家族とはな

れてしまった。さびしい気持ちでいっぱいだったと思う。それでも小さい子どもを助けた。そして、ルマンドさんは行方不明の母と二人の妹を探すだけでなく、医者になって沢山の人を助けるのが夢だという。そのような人のために何かをしようという思いに感動した。

日本もインドネシアもプリートの境目にある。日本が持っている知識をもっと早く伝えていけば、スマトラ沖地震の死者・行方不明者数が16万4千人より少なくなっていたと

鈴木貴久

思う。今日の授業で、なぜもつと早く地震や津波のことを教えてくれなかったの、というインドネシアの方の言葉を知った。日本はインドネシアに謝らないといけないと思う。そして日本の知識を伝えないといけないと思う。しかし、僕がもし地震や津波についてとても詳しくかつたとしてもインドネシアには行けない。お金がかがるし、インドネシア語も話せない。それに、それにはたくさん日本人の中でなぜ自分が代表で行かなければならないのかと思うてしまう。

WASENDの活動を知りとてもすごいと思った。書き込み式の絵本や防災パズル、アニメーションを作ったり、実体験型の授業や劇を行ったりしていた。対象は子供から高齢者まで、対象人数も10人から200人と幅広い。それだけに一つの出前授業でも計画が大変なのではないかと思う。正直、世界にこのようないことを広めたいとか大きなことは宣言できないけれど、地震に関係する募金なら多めに入ればよいと思う。